

《 患者さまへ 》

◎平成29年6月21日より臨床検査値の成人基準値を新統一基準に改正しました。

院外処方せんに記載される検査項目についての解説

項目	名称	成人基準値	単位	説明
WBC	白血球数	3.3～8.6	$\times 10^3 \mu\text{L}$	白血球は病原体から身体を防御します。感染症や炎症にて増減します。
HGB	血色素量	M: 13.7～16.8 F: 11.6～14.8	g/dL	血液中のヘモグロビン濃度です。ヘモグロビンは酸素を運ぶ働きがあり、貧血などの目安になります。
PLT	血小板数	158～348	$\times 10^3 \mu\text{L}$	血小板は出血を止める働きがあります。減少すると出血が止まりにくくなります。
PT-INR	プロトロンビン時間	0.90～1.17	—	血液の凝固機能を調べる検査です。
γ -GTP	γ グルタミルトランスペプチターゼ	M: 13～64 F: 9～32	U/L	肝・胆道系の病気に対するスクリーニング検査です。アルコール性肝障害などで上昇します。
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13～30	U/L	肝臓、心臓などの障害で上昇します。以前はGOTともいわれていました。
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ	M: 10～42 F: 7～23	U/L	肝臓、腎臓などの障害で上昇します。以前はGPTともいわれていました。
S-CRE	血清クレアチニン	M: 0.65～1.07 F: 0.46～0.79	mg/dL	肝臓で合成され、腎臓から排泄されます。腎臓の機能が低下してくると排泄できなくなり、血中に増えてきます。
eGFR	推算糸球体濾過値	60以上	mL/分 /1.73m ²	血清クレアチニン値、年齢、性別から計算された腎機能の指標です。
K	カリウム	3.6～4.8	mmol/L	カリウムは電解質の一つで、腎疾患、ホルモン異常、脱水などで異常値を示します。
HDL-Cho	HDLコレステロール	40～96	mg/dL	動脈硬化を防ぐので善玉コレステロールと呼ばれています。
LDL-Cho	LDLコレステロール	60～139	mg/dL	動脈硬化の危険因子です。
TG	中性脂肪	30～149	mg/dL	動脈硬化の危険因子です。
BG	血糖	空腹時: 70～109 随 時: 200未満	mg/dL	糖尿病の指標で血液中のブドウ糖量を示しています。
HbA1c	ヘモグロビンA1c	4.6～6.2	%	過去の1～3ヶ月の血糖のコントロール状態を示しています。糖尿病のコントロールに重要な指標です。
U-AC	尿酸	M: 3.6～7.0 F: 2.3～7.0	mg/dL	尿酸濃度が高い状態が続くと痛風発作や尿路結石の原因にもなります。

- ・大館市立総合病院の院外処方せんに記載される検査項目の基準値と大まかな解説です。
- ・個人差等がありますので、ご不明な点がございましたら主治医までご相談ください。

平成29年6月21日

大館市立総合病院
臨床検査科
薬 剤 科